

敦賀総合研究開発センター

センター長 宇埜 正美



2018年の発足以来、高速炉に関する研究開発やレーザー応用研究、人材育成及び地域産業支援に取り組んでまいりました。

昨年も新型コロナウイルス感染症対策の影響により対面での活動が制限されるなど厳しい状況が続きましたが、「ふくいスマートデコミッション技術実証拠点」(スマデコ)を、廃止措置関連の技術研修をはじめ、地域企業の皆さまにご活用いただくなど、地域産業支援への取り組みに対し、皆さまのご理解、ご協力を得て事業を進められたことにあらためて感謝を申し上げます。

これらの活動は、福井県の「嶺南Eコースト計画」の施策にも位置付けられており、本年も引き続き地域へ貢献することを目指して活動を進めてまいります。



新試験研究炉準備室

室長 峯尾 英章



国が進めている「もんじゅ」サイトを活用した新たな試験研究炉の設置に向けた概念設計や運営の在り方の検討を行う事業を京都大学及び福井大学とともに中核的機関として受託し、2020年11月より活動を行っております。

本年は、建設候補地での掘削による地質構造の把握等の調査、炉心構成や将来の運営の在り方などについて、引き続きより詳細な検討を進めてまいります。

我が国の原子力研究開発や人材育成の基盤維持と、中性子を利用したイノベーション創出の場を実現し、地元振興に貢献できる試験研究炉とするため、引き続き取り組んでまいります。



原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ



地域の皆さまへ - 謹賀新年 -



新春を迎え、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます



敦賀事業本部長(副理事長) 伊藤 洋一



新年明けましておめでとうございます。

平素より、原子力機構の業務運営につきまして、ご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

我が国が目指すカーボンニュートラルの実現に向け、重要なベースロード電源である原子力エネルギーを将来にわたって持続可能な形で利用するためには、原子力施設の廃止措置を着実に進めることが重要です。

私どもは、「ふげん」、「もんじゅ」について、原子力規制委員会に認可された廃止措置計画に沿って、安全確保を最優先に廃止措置に向けた作業を進めるとともに、廃止措置の経験を通じ、将来の高速炉開発や軽水炉の廃止措置に活用できる有益なデータ・知見の蓄積に努めてまいります。

また、廃止措置事業への地元企業の参画促進のための取り組みや、「もんじゅ」サイトに設置することとされている新たな試験研究炉による研究開発・人材育成・地域振興について、国、地元自治体、大学、学会、産業界と連携して検討を進めてまいります。

これらの活動により、敦賀地区が廃止措置の先駆的実証拠点となるよう、さらには、原子力の基礎基盤・人材育成に貢献できるよう、役職員一同決意を新たにに取り組んでまいります。



● 本資料に関するお問合せ先 ●

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 地域共生部 地域共生・広報課
〒914-8585 福井県敦賀市木崎65-20 【TEL】0770-21-5026 【FAX】0770-21-2045
原子力機構ホームページ: <https://www.jaea.go.jp> 敦賀事業本部ホームページ: <https://www.jaea.go.jp/04/turuga/>

発行: 2022年1月

敦賀廃止措置実証部門

部門長(理事) 吉田 邦弘

「もんじゅ」においては、2018年度より原子炉容器及び炉外燃料貯蔵槽にある530体の燃料体を燃料池に取り出す作業を行っており、これまでに406体の燃料体を取り出しました。

本年は、残る124体の取出し作業を安全第一で着実にいき、全ての燃料体の取出しを完遂するよう進めてまいります。また、燃料体の取出しに続く、ナトリウム機器の解体準備の手順を取りまとめ、計画的に廃止措置を進めてまいります。

「ふげん」においては、原子炉周辺設備の解体作業を行っており、2ループのうち、去年は1ループ目の解体を終了して2ループ目の解体に着手しております。

本年も安全第一で計画的に作業を進めてまいります。また、使用済燃料については、2026年度夏頃に搬出を完了するという地元とのお約束を守るべく着実に進めてまいります。



敦賀廃止措置実証本部

本部長・プロジェクトマネージャー 安部 智之

本年は、「もんじゅ」の燃料体取出し作業の最終年であるとともに、「もんじゅ」のナトリウムと使用済燃料の搬出計画や2023年度から始まる「もんじゅ」廃止措置第2段階の計画を決める年になります。

ナトリウムについては、2028年に搬出を開始し、第2段階中に大部分を英国に搬出できるよう、燃料体取出し作業後に実施するしゃへい体等の取出し作業の準備やナトリウム搬出設備の整備等を行ってまいります。

使用済燃料については、仏国での再処理を基本としつつ、その他の選択肢も含め検討を進めてまいります。

安全、確実、そして、できる限り速やかに廃止措置が進むよう、組織一丸となって、廃止措置プロジェクトに取り組んでまいります。



新型転換炉原型炉ふげん

所長 櫻井 直人



「ふげん」は、原子力規制委員会から認可された廃止措置計画に基づき廃止措置に取り組んでおり、去年は、原子炉周辺設備の解体撤去について、Aループの解体撤去を完工しました。

本年は、引き続き、残るBループの解体撤去工事を安全第一で計画的に進めてまいります。

施設内に保管している使用済燃料については、2023年度からの計画的な搬出に向け、昨年、国から輸送容器(キャスク)の設計承認を得て製造を開始しており、搬出に向けた準備を着実に進めてまいります。

また、循環型社会の形成へ貢献すべく、クリアランス制度の運用を進めており、地域の皆さまのご理解を頂きながら、関係機関と連携し、クリアランス制度の更なる活用・促進に取り組んでまいります。

本年も、安全確保を最優先に業務を進めてまいります。



高速増殖原型炉もんじゅ

所長 荒井 眞伸

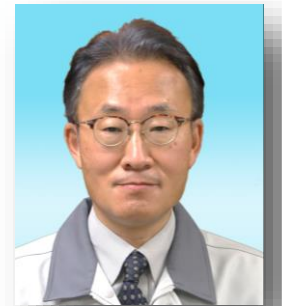


去年は、年初から燃料体の取出しを開始し、引き続き処理を進め、無事に146体の燃料体を燃料池に取り出すことができました。

本年は、燃料体取出しの第4キャンペーンを実施して、廃止措置第1段階を総仕上げする年です。第3キャンペーンまでの結果に甘んずることなく、皆さまにお約束している本年12月までの燃料体取出しの完了を目指して、安全第一で緊張感をもって最後まで確実に成し遂げます。そして、この5年半の燃料体取出しにおいて蓄積してきた知見を技術成果として取りまとめ、将来の高速炉サイクル技術の開発に活かしてまいります。

また、第2段階以降の廃止措置計画の認可を取得し、燃料体取出し後も引き続き着実に廃止措置を進めていきます。

本年も、地域の皆さまのご理解をいただきながら、安全最優先で業務を進めてまいります。



廃止措置の実施にあたっては、安全確保を最優先に、引き続き新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策に取り組みつつ、立地地域並びに国民の皆さまのご理解をいただきながら、着実に進めてまいります。